

## 『閉校、そして開校』

(弘前市教育委員会教育長 佐々木 健)

28年度4月の統合校“裾野小学校”の開校に伴い、修斉小学校と草薙小学校が閉校となり、両校とも雪の降る前の11月に早々と閉校式を行いました。どちらも歴史も古く、校名も深い意味や想いが込められており、地域にとってかけがえのない存在であり、出席された方々は複雑な思いで式に臨まれたはずです。

草薙小学校は新制中学校ができて以来、昭和56年まで小中併置校でした。実は、私は昭和49年4月に草薙中学校採用になりました。(ちなみに昭和57年に中学校が修斉中学校と統合し、現在の裾野中学校となりました。)

小中併置校。校長1名に教頭が2名、一つの職員室に先生方も仲良く交流しており、ごく自然に小1～中3の子どもたちが学校生活を共にするという大変貴重な経験からスタートしました。昭和51年には創立百周年を共に祝い、生徒とねぶたを作り学区一周パレードを行いました。このように個人的にもいろいろ思い出が蘇ってくる学校であり、地域の方々同様、校名が消えることへ一抹の寂しさを禁じ得ませんでした。

また、修斉小学校も一部に昔の校舎、磨き上げられた廊下、林間走路など、ご年配の方々にとっても学校に行けば子どもの頃の自分に会えるような貴重な空間が残っており、心のよりどころでもある小学校の閉校に涙された方も多かったようです。

私はその後およそ30年して、現在の裾野中学校に校長として、謂わば舞い戻るのですが、なんといっても驚いたのは子どもの少なさでした。かつてのあの賑やかさはどこへ行ったのでしょうか。私は校長として自分のテーマを決めました。「この地の少子化をくい止める!」。目の前の子どもたちに将来この地を生活基盤として家庭を築いてもらわなくては。そのためには、この地で生活する良さを体感し、この学校で学ぶことに誇りと自信をもたせる必要があります。それには地域の方々の協力が不可欠です。関わってもらうことによって、大人としてこの地の現状や良さを伝え、そしてこの地の未来を語ってもらう。地域の中に子どもたちの出番を作ってもらう。中学校だけの課題ではありません。小学校も一緒にスクラムを組みました。いつかはこの成果が現れてくるものと信じています。この度の小学校の開校により、地区に一校ずつの小・中学校となりますが、さらに小中の結びつきを強くし、学校・家庭・地域が思いを共有して欲しいものです。

さて、今年度はなんと言っても弘前城石垣工事に伴う天守曳屋が全国的に話題になりました。丁度百年前の大正4年に石垣崩壊に伴う修理工事が終わっていますので、私たちはまさに百年に一度の大事業に巡り合ったというわけです。市内の6年生の皆さんにその天守曳屋工事の現場見学の機会を作りました。その時の様子や感想を各校で作文や壁新聞、絵画、俳句等様々に表現しているのが大変素晴らしく、いくつかをヒロロ、その他の場所に展示し、市民の皆さんにも見ていただく計画をしました。

世紀の大工事現場を直接目の当たりにした経験はしっかりと子どもたちの胸に刻み込まれたものと思います。ヒロロの会場に工事担当会社の責任者である對馬氏がお見えになりました。(お孫さんの作品も掲示されていました)對馬氏をご覧になりながら『子どもの感性ってすごいね』と感心しておられました。ご指導いただいた先生方に心から感謝します。